

# 計画撤回、県に要望

## 産廃処分場で「訴訟含め検討」 日立の市民団体

県関与の新たな産業廃棄物最終処分場の候補地として、県が日立市諏訪町の採石場跡地を選定したことを巡り、建設に反対する市民団体は10日、計画撤回を求める要望書を大井川和彦知事宛てに提出した。団体側は提出後、「訴訟も含めて

今後の対応を検討していきたい」とした。

市民団体は「県産業廃棄物最終処分場建設に反対する連絡会」。要望書は、市民を中心とする8千筆の建設反対署名を市に提出したことに触れた上で、「知事は速やかに処分場計画を断念し、日立市長および市議会議長にその旨を伝えること」を求めた。

理由として7項目を挙げ、運搬車両の増加で交通渋滞や生活環境の悪化につながる主張。候補地は沢地のため地下水汚染は避けられないと指摘し、市内で最も人口が多い多賀支所管内にある候補地は「全く不相当」とした。



大井川和彦知事宛ての要望書を提出する「県産業廃棄物最終処分場建設に反対する連絡会」の荒川照明代表（左から2人目） 県庁

同日は連絡会の荒川照明代表らメンバー7人が県庁を訪れ、「ぜひ知事に日立市民の声を聞いてほしい」と県新最終処分場整備室の清水洋人室長に要望書を手渡した。

実施した住民説明会を踏まえ、搬入道路の交通対策を検討している。同室は「道路整備などは非常に大きな問題で検討に時間がかかっている」とし、予定していたフォーアアップ説明会開催のめどは立っていない。

荒川代表は提出後の取材に「県の回答次第というより、設定そのものがあり得ない。黙っていれば作られてしまう。署名や市民の声を広げていきたい。裁判問題も当然あり得る話」と語った。（戸島大樹）

# 「最終処分場撤回を」 日立の団体 県に要望書

県の新たな産業廃棄物最終処分場を日立市諏訪町に整備する計画を巡り、同市の住民グループ「県産業廃棄物最終処分場建設に反対する連絡会」は10日、計画の撤回を求める大井川和彦知事宛ての要望書を提出した。

同会の荒川照明代表らが県庁を訪れ、清水洋人・新最終処分場整備室長に要望書を手渡した。

要望書は、多数の車両が出入りし交通渋滞や環境悪化につながる▽現在稼働中の最終処分場「エコフロンティアかさま」（笠間市）では大気や土壌、地下水が有意に汚染されている▽日本原子力発電東海第二原発（東海村）から約十二キロの位置にあり、原発事故時に管理が不可能になる一などの反対理由を列挙。新型コロナウイルス禍の中、住民説明会が諏訪地区を中心に、市の狭い施設で繰り返し開かれたことについても「公衆衛生上の配慮に加え、全市域的重大問題であることへの配慮も不足していた」と苦言を呈した。

清水室長は「知事に報告したい」と応じた。（宮尾幹成）